

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-97

<b>部門名：</b> 校内研修プログラム開発・実践部門	<b>エントリー名：</b> 京都府木津川市立城山台小学校
<b>活動名：</b> 考えることを楽しむ研修会 ～主体的・対話的に学ぶ教科チーム制～	
<b>解決すべき課題：</b> 開校 6 年目。全校児童数が 800 名を越え、次年度は 1000 名と今後も引き続き増加が見込まれる。児童数増加に伴い、教職員数も急増し、担任の約 3 分の 1 が経験年数 3 年以下の若手教員という職員体制の中、授業力に差があること、教職員がベクトルをそろえて教育活動に取り組むことが課題であり、教員個々の力量向上が求められている。	
<b>目標・方針：</b> 1、個々の教員の得意・希望教科をもとに教科チームを編成し、各教科において「思考ツール」を活用した授業づくりを行い、楽しみながら教科の専門性の教科力の向上を目指す。 2、各教員が教科力を高めることで、他教科の授業へ波及させ、授業力の向上も目指す。 3、各教科のチームで練った授業を各学年でも実践することで、児童の学力向上につなげる。(図 1) 4、本校の研究を他校へと波及させるために、校内研修の公開と研究発表会を実施する。	
<b>活動内容：</b> (1) 校内研修での学び合い ・チームで「思考ツール」を活用した授業づくりについて練り合い、実践・評価を行う。指導案等も簡略化し、「授業を練る」時間を確保することに重点を置く。(写真 1) ・実践報告レポートを作成し、夏季休業中に実践報告会を開き、教科を越えて学び合う。(写真 2) ・チーム内での授業参観だけでなく、全教員がひとつのチームの授業を参観する授業研究会を設定し、事後研修会では、「主体的・対話的に学ぶ」「次へのアクションを探る」ことを大切にし、チームごとの協議や「ワールドカフェ方式」の話合いなど多様な話合いの場を設定する。(写真 3) (2) 他校への波及 ・校内研修会を公開したり、研究発表会を実施したりすることを通して、他校教員、指導主事等と本校教員との対話を進め、研究内容の学びを深める。(写真 4) ・他校の校内研修で、「思考ツール」を活用した授業と研修の在り方について説明する。(写真 5)	
<b>活動の成果：</b> ・教員が学びたい教科の研究に取り組むことで、義務感や負担感を減らすことができ、意欲的に授業づくりができた。また、「思考ツール」を活用した授業づくりという共通のテーマがあったことで、他の教科チームと学びを共有することができ、一体感が生まれた。 ・教員が主体的に学び、他の教科チームからの学びを得ることで、個々の授業力向上につながった。特に、「若手教員をみんなで育てていこう」「力量のある先生方から学ぼう」という雰囲気づくりができた。 ・他校への波及については、本校教員が他校の研修会に講師として参加し、本校の取組を紹介した。また、校内研修会に市内外から多くの先生方が参加し、各校での校内研修、授業のモデルとなった。	
<b>アピールポイント (アイデアや工夫)：</b> ・一人で悩むのではなく、チームで考え、話し合い、楽しく授業づくりを行うことができた。 ・同学年だけでなく異学年の教員同士の繋がりが深まり、教員間のよい関係を生み出すことができる。 ・全教員が「思考ツール」を授業で活用することで、授業力向上・授業改善のベクトルを揃えることができる。 ・教員個々の教科力を高めることで、小学校における教科担任制実施を推進することができる。	

<写真、図表添付欄>

図 1 <研究構想図>

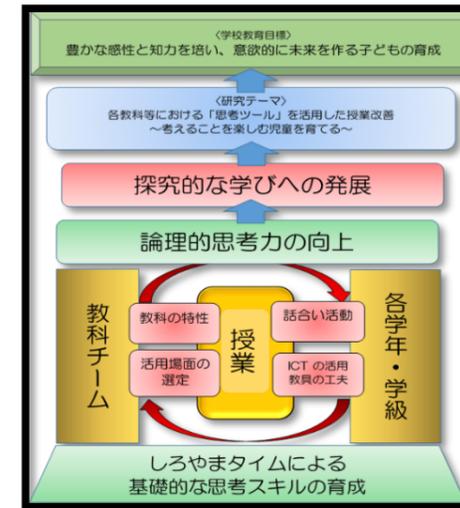


写真 1 <教科チーム研修>



写真 2 <実践報告会の様子とレポート集>



写真 3 <授業研究会の様子>



写真 4 <他校への波及活動>



写真 5 <他校・園の先生の校内研修会への参加>

